

# CASBEE<sup>®</sup> 熊本《新築》【性能表示】

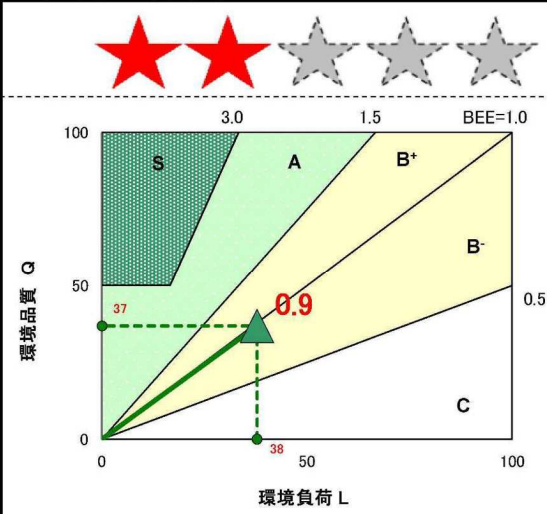
1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称) 熊本市中央区南坪井町6計画 新築工事	階数	地上18階、地下1階
建設地	熊本市中央区南坪井町6-1,6-2,6-3,6-15,6-16,6-19	構造	RC造
用途地域等	商業	平均居住人員	126 人
省エネ:地域区分	7地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	物販店,集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2029年2月 予定	評価の実施日	2025年3月1日
敷地面積	778 m <sup>2</sup>	作成者	片山
建築面積	317 m <sup>2</sup>	確認日	2025年3月1日
延床面積	5,579 m <sup>2</sup>	確認者	馬場



お任せください。

## 2 CASBEE評価結果

### ■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



BEE = 0.9

$$\text{BEE (環境効率)} = \frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$$

#### ■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B <sup>+</sup>	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B <sup>-</sup>	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

#### ■ ライフサイクルCO<sub>2</sub> 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	★★★★★
30%超60%以下	★★★★
60%超80%以下	★★★
80%超100%以下	★★
100%超	★

### ■ ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出性能(ランク表示)



### ■ 排出率

22%

## 3 熊本県重点評価結果

### ■ 重点事項総合評価



### ■ 評価点

73

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

### ■ 評価点

95.0

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

42.5

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

67.8

【重点事項4】 循環型社会の実現

64.9

### ■ 熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	★★★★★
80点以上100点未満	★★★★
60点以上80点未満	★★★
40点以上60点未満	★★
40点未満	★

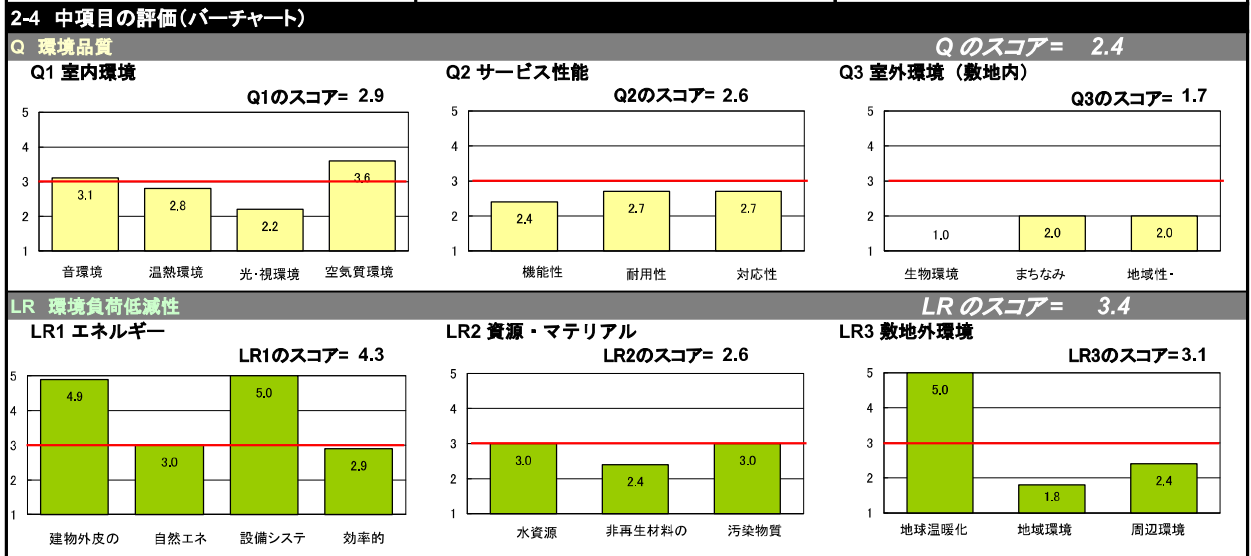
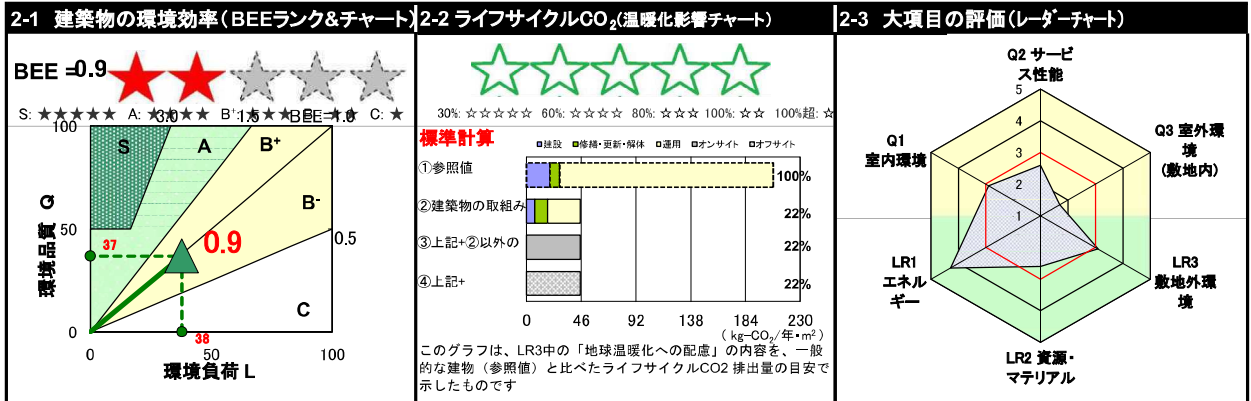
※評価点は、100点以上が推奨です。

# CASBEE® - 建築(新築)

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v.3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称) 熊本市中央区南坪井町6計画 新築工事	階数	地上18階、地下1階
建設地	熊本市中央区南坪井町6-1,6-2,6-3,6-15,6-16,6-19	構造	RC造
用途地域等	商業	平均居住人員	126 人
省エネ:地域区分	7地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	物販店,集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2029年2月 予定	評価の実施日	2025年3月1日
敷地面積	778 m <sup>2</sup>	作成者	片山
建築面積	317 m <sup>2</sup>	確認日	2025年3月1日
延床面積	5,579 m <sup>2</sup>	確認者	馬場



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される  
 ■LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照されたい

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>2.4</b>
<b>Q1 室内環境</b>					0.40		-		<b>2.9</b>
<b>1 音環境</b>				<b>3.0</b>	0.15	<b>3.2</b>	1.00		<b>3.1</b>
1.1 室内騒音レベル				<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.50		
1.2 遮音				<b>3.0</b>	0.50	<b>3.5</b>	0.50		
1 開口部遮音性能				3.0	1.00	3.0	0.30		
2 界壁遮音性能		Dr-50以上		3.0	-	4.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		Lr-45以上		3.0	-	4.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	0.20		
1.3 吸音				-	-	3.0	-		
<b>2 温熱環境</b>				<b>1.0</b>	0.35	<b>3.5</b>	1.00		<b>2.8</b>
2.1 室温制御				<b>1.0</b>	0.71	<b>3.7</b>	0.71		
1 室温				1.0	0.63	3.0	0.63		
2 外皮性能		断熱性能等級5		1.0	0.37	5.0	0.38		
3 ゾーン別制御性				-	-	-	-		
2.2 湿度制御				<b>1.0</b>	0.29	<b>3.0</b>	0.29		
2.3 空調方式				-	-	-	-		
<b>3 光・視環境</b>				<b>1.7</b>	0.25	<b>2.5</b>	1.00		<b>2.2</b>
3.1 昼光利用				<b>1.8</b>	0.41	<b>4.0</b>	0.30		
1 昼光率		住戸昼光率2.0%		1.0	0.59	5.0	0.50		
2 方位別開口				-	-	3.0	0.30		
3 昼光利用設備				3.0	0.41	3.0	0.20		
3.2 グレア対策				<b>1.0</b>	0.39	<b>3.0</b>	0.30		
1 昼光制御				1.0	1.00	3.0	1.00		
3.3 照度				<b>3.0</b>	0.20	<b>1.0</b>	0.15		
3.4 照明制御				-	-	<b>1.0</b>	0.25		
<b>4 空気質環境</b>				<b>3.6</b>	0.25	<b>3.6</b>	1.00		<b>3.6</b>
4.1 発生源対策				<b>4.0</b>	0.60	<b>4.0</b>	0.63		
1 化学汚染物質		使用材料は全てF☆4以上		4.0	1.00	4.0	1.00		
4.2 換気				<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.38		
1 換気量				3.0	0.50	3.0	0.33		
2 自然換気性能				3.0	-	3.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50	3.0	0.33		
4.3 運用管理				-	-	-	-		
1 CO <sub>2</sub> の監視				-	-	-	-		
2 喫煙の制御				-	-	-	-		
<b>Q2 サービス性能</b>				-	0.30	-	-		<b>2.6</b>
<b>1 機能性</b>				<b>1.4</b>	0.40	<b>2.8</b>	1.00		<b>2.4</b>
1.1 機能性・使いやすさ				<b>1.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.60		
1 広さ・収納性				3.0	-	3.0	-		
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	3.0	1.00		
3 バリアフリー計画				1.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性				<b>1.0</b>	0.30	<b>2.5</b>	0.40		
1 広さ感・景観		天井高 2.5m以上		1.0	0.01	4.0	0.50		
2 リフレッシュスペース				-	-	-	-		
3 内装計画				1.0	0.99	1.0	0.50		
1.3 維持管理				<b>2.5</b>	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保				2.0	0.50	-	-		
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>2.7</b>	0.30	-	-		<b>2.7</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振				<b>3.0</b>	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>2.9</b>	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数		劣化対策等級3レベル		5.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				2.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				2.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				<b>2.0</b>	0.20	-	-		
1 空調・換気設備				1.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備				1.0	0.20	-	-		
3 電気設備				3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備				2.0	0.20	-	-		

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>2.9</b>	0.30	<b>2.7</b>	1.00	<b>2.7</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>2.2</b>	0.01	<b>3.4</b>	0.50	
1 階高のゆとり		階高 3.15m以上	3.0	0.60	5.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ			1.0	0.40	1.0	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>2.0</b>	0.01	<b>2.0</b>	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	0.99	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.30	-	-	<b>1.7</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>1.0</b>	0.30	-	-	<b>1.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>2.0</b>	0.40	-	-	<b>2.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.4</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	<b>4.3</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		断熱性能等級5	<b>4.9</b>	0.20	-	-	<b>4.9</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		[BEI][BEIm] = 0.72	<b>5.0</b>	0.50	-	-	<b>5.0</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>2.9</b>	0.20	-	-	<b>2.9</b>
集居住宅以外の評価			<b>2.0</b>	0.02	-	-	
4.1 モニタリング			-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			2.0	1.00	-	-	
集居住宅の評価			<b>3.0</b>	0.98	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	<b>2.6</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
1.1 節水			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>2.4</b>	0.60	-	-	<b>2.4</b>
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み			3.0	0.22	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.0</b>	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	<b>3.1</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		換算スコア 5.0	<b>5.0</b>	0.33	-	-	<b>5.0</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>1.8</b>	0.33	-	-	<b>1.8</b>
2.1 大気汚染防止			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			<b>1.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>2.5</b>	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			1.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>2.4</b>	0.33	-	-	<b>2.4</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>1.0</b>	0.40	-	-	
1 騒音			1.0	1.00	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			1.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			<b>4.4</b>	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		広告物照明を行わない。さらに光害対策にも考慮	5.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	

熊本県重点評価結果 スコアシート ※手動入力は不要		実施設計段階
建物名称	(仮称)熊本市中心区南坪井町6計画 新築工事	

■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

熊本県重点評価結果				総合評価点		73
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				95	0.40	38.00
Q1-2.1.2	外皮性能	3.9	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	2.4	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	4.9	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	5.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				42.5	0.20	8.50
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	1.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	1.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				67.8	0.20	13.56
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	2.0	0.29			
LR2-1.1	節水	3.0	0.43			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.29			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	0.0	0.00			
④ 循環型社会の実現				64.9	0.20	12.98
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	2.9	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	2.8	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数)の総和  
※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数)の総和 × (5/4) × 20  
※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケール定数

## ■ 環境関連の配慮事項

(仮称)熊本市中央区南坪井町6計画 新築工事

印刷:モノクロ  
設定済み

・適宜、箇条書き等で記入してください。

・キーボード操作:改行の際は【Alt】キー&【Enter】キーで次の行に進みます。

計画上の配慮事項		※必ず、何らかのコメントを記入してください。
総合	室内環境やサービス性能に配慮し、環境品質の向上に努めた。 また住宅性能評価 断熱基準等級5を満たし、断熱性に優れている。	
Q1 室内環境	F☆☆☆☆建材を全面的に採用し、健全な空気室環境づくりに努めた。	
Q2 サービス性能	居室の天井高2.5m以上を確保することにより、ゆとりある空間を計画。 給排水配管には長寿命材を採用。	
Q3 室外環境 (敷地内)	既存建物の面影を残しつつ、周囲と調和する色彩を選定。	
LR1 エネルギー	断熱性の高い材料の採用と高効率設備の導入により、環境負荷低減に配慮。	
LR2 資源・マテリアル	水資源保護を考慮し、建物の節水性に配慮。 ノンフロン断熱材を使用し、汚染物質含有材の使用回避を行った。	
LR3 敷地外環境	光害対策に十分配慮した計画。	
その他		